

【フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	高知県
-------	-----

、学校の概要(平成15年度4月現在)

学校名	高知市立泉野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	2	3	3	20	32
児童数	112	111	94	111	80	87	6	601	

研究の概要

1. 研究主題

互いのよさを認め合い いきいきと活動する子どもを育てる
 ~子どもどうしのかかわりの中で質的な高まりをめざして~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・ 3・4年生 算数
 学校として当該教科に関する研究実践があり、子どもの理解度に差がしやすい教科、学年であるため

(2) 年次計画

平成14年度

テーマ
 互いのよさを認め合い いきいきと活動する子どもを育てる
 ~子どもどうしのかかわりの中で質的な高まりをめざして~

仮説
 「学習感想」から子どもの授業に対する生の声を読み取ることで授業を評価し、授業改善を図っていけば、子どもが意欲的、能動的に活動する授業になり、ひいては学力向上につながると思う。
 また、個は集団によって高められると考え、友から学べる個を育てる授業づくりに努める。

研究内容・方法
 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
 授業改善に取り組み、授業改善につなげるために、子どもの授業に対する生の声を生かした本校独自の授業評価システムを構築する。

泉野小学校の授業評価システム

```

        graph TD
            A[授業を評価する  
学習感想  
授業評価表] --> B[授業を記録する  
実践記録  
(めざす授業)]
            B --> C[授業を計画する  
めざす授業を  
指導案に具現化]
            C --> D[授業を改善する  
子どもの思考に  
寄り添いながら]
            D --> A
    
```

授業を評価する
 子どもの学習感想にみられる5つの様相を想定し、個々の子どもの学習感想の変容を追跡する。
 授業者の側からの授業評価表の内容や活用方法について研究する。

授業を記録する
 研究主題に迫ることができた授業を実践記録としてまとめることで、めざす授業の姿を明らかにする。

授業を計画する
 本校がめざす授業を具現化するための指導案のあり方を研究する。

授業を改善する
 子どもの活動の中によさを見だし、その思考に寄り添いながら授業を改善する。

平成 14 年度	<p>発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発</p> <p>発展的な学習例</p> <p>「ドリルに頼らない漢字学習への取り組み」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく学ぶ、自ら学ぶ … 漢字カードを活用した継続的な漢字学習 <p>「発展的課題に取り組む」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数の授業の終わりに、発展的な課題を出すことで、追求できる子どもの育成をめざす。 <p>補充的な学習例</p> <p>「5分間チャレンジ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数の授業の最初3分間、子どもの実態や単元の内容に応じて、四則計算の習熟の時間を継続してとる。 <p>「1日1題・お帰りテスト」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰りの時間や家庭学習を利用して、1日に1問算数の問題に取り組む。
----------------	---

平成 15 年度	<p>テーマ</p> <p>互いのよさを認め合い いきいきと活動する子どもを育てる ～子どもどうしのかかわりの中で質的な高まりをめざして～</p> <p>仮説</p> <p>「学習感想」から子どもの授業に対する生の声を読み取ることで授業を評価し、授業改善を図っていけば、子どもが意欲的、能動的に活動する授業になり、ひいては学力向上につながると思う。</p> <p>また、個は集団によって高められると考え、友から学べる個を育てる授業づくりに努める。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成14年度と同様の形で取り組む。 ・算数科を基盤に取り組む <p>子どもの理解度に差が出やすい教科であり、学校として当該教科に関する研究実績がある。また、系統性のはっきりした教科であるので、計画的に研究を積むことができる。</p> <p>「授業評価への取り組み」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習感想と授業の中での発言やノートの記述との関連性に着目し、授業後の学習感想を分析しながら個の学びの姿を追究することで、授業改善に生かすことができた。 ・学習感想の記述から、児童の学習への意欲が窺える。それは、児童の「学びの姿」を示すものであり、学習の基盤となり習熟の高まりに繋がっている。 ・他教科への発展を考え、「授業評価への取り組み～子どもの声を生かした授業改善」の冊子には社会科の授業の実践も掲載する。(仕上がり予定3月初旬)
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <p>互いのよさを認め合い いきいきと活動する子どもを育てる ～子どもどうしのかかわりの中で質的な高まりをめざして～</p> <p>仮説</p> <p>「学習感想」から子どもの授業に対する生の声を読み取ることで授業を評価し、授業改善を図っていけば、子どもが意欲的、能動的に活動する授業になり、ひいては学力向上につながると思う。</p> <p>また、個は集団によって高められると考え、友から学べる個を育てる授業づくりに努める。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>平成14年度・15年度と同様。</p>
----------------	---

(3) 研究体制

- ・ 研究部（メンバー 研究主任、各学年より1名）

平成15年度の成果及び課題

1. 研究の成果

- ・ 教科担任と学級担任とで授業を行うことで、子どものよさを見取り、授業への子どもの意識を高めることができた。また、教材そのものへの解釈の幅が広がり、授業に広がりが見られる。子どもの学習意欲の高まりとともに教師自身も授業評価システムの活用を推進し、互いに授業を公開しあって授業改善を図ろうという姿勢が強くなってきている。
- ・ 授業評価の方法として学習感想を取り上げ、子どもの生の声をもとにした授業改善を行っている。子どもの学習感想からは、新たな発見や気づき、友だちのよさに触れる記述も多くなってきている。その記述は、学年ごとの積み上げのもとにその成果を見せている。授業の中では、徐々にではあるが、友だちの意見を聞くようになり、友だちの考えを受けて自分の考えをより確かなものにしようとする子どもの姿が見られるようになってきた。これは、子どもの学びの質的な高まりを意味している。こうした子どもの変容は、教科担任と学級担任を中心にして、子どものよさを認めることで、意欲的な活動につなげようという取り組みを進めてきた成果だといえる。
- ・ 教科への意欲・関心の高まりとともに自主的に学習に取り組む子どもも見られるようになってきた。自主勉強や休み時間を利用して積極的に学習に取り組む子どももいる。
- ・ T T 授業によって、複数の目から子どものよさを認めていくことや一人一人の子どもの思考に寄り添うことが可能になることで、子どもがいきいきと活動し、その教科を好きだと感じている子どもが増えてきた。このことが、ひいては「学校が好き」「授業が楽しい」という気持ちを育て、確かな基礎基本の定着につながっている。
 - 【3年生で行ったアンケート調査の結果から】
 - 3年生では、専科的な算数T Tの体制をとっている。
 - ・ 2人の先生に教えてもらっていることで、その教科が好きになっている児童 91%
 - ・ 2人の先生が教える授業を楽しみにしている児童 92%
 - ・ 学習内容がよく分かる 92%
 - ・ CRTの結果は、数と計算領域において2年生が86.5%、3年生90.8%、4年生84.6%となっており、昨年度に比べて20%も上がっている。また、量と測定領域でも同じような傾向が表れている。
 - 図形領域では、5年生が91.9%の通過率を示しており、定着率がよい。

2. 今後の課題

- ・ 本校には、様々な環境を背負って登校している子どもが多い。そういう意味では、特に個に応じた指導が不可欠であり、活動の楽しさが感得でき、認められることで高まっていける授業へと改善する必要がある。そのためにはT Tは不可欠である。また、子どものつまずきや課題は、それぞれの学年によって異なりその対応策も様々である。それらに担任一人で対処するには限界がある。逆にT Tだからこそ取り上げることができる子どものよさもたくさんある。そういう意味でT Tの効果は計り知れない。このような点からみても、T T担当が増えれば、今よりも手厚い指導ができ、より確かな学力を定着させることができると考える。今後もT Tの指導法のあり方について考え、教科の専門性を生かした指導を考えていきたい。
- ・ 中学年の算数科においては、教科担任が2学年にわたっており、指導時間が多いため、教科担任と学級担任との打ち合わせの時間（授業反省、学習感想等のノート点検、教材研究）が取れないのが現状である。教科内容・児童の思考の発達（具体的思考から抽象的思考への移行段階）を考え、有効な活用を考えていきたい。

学力把握のための学校の取組について

単元ごとのテストや学習内容や子どもの実態に応じたワークシートの実施。
自分自身に生かせるノートづくりとその点検。

フロンティアスクールとしての成果の普及について

時事通信社から教育奨励賞努力賞を受ける。(平成15年10月27日)
学校訪問者への授業公開、研究内容の説明実施

- ・ 5月21日(水) 午前 米子市立就将小学校教諭3名
- ・ 5月22・27日(木・火) NHK取材
- ・ 9月24・25日(水・木) 東京都立大学助教授 小国喜弘先生
- ・ 10月30日(木) 午前 山口県防府市立華西中学校
- ・ 11月20日(木) 午前 金沢市立材木小学校教諭
- ・ 12月5日(金) 終日 香川県高松市立亀阜小学校教務主任
- ・ 1月22日(木) 終日 東京からNHK局員2名
- ・ 1月30日(金) 午前 長野県東彼杵小学校校長・研究主任
- ・ 2月12日(木) 午後 福井市立小学校校長5名

研究成果普及のため冊子作成
3月初旬に完成予定

ü

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	